

住まいに関する処方箋

～入居者トラブル対処から実家片づけまで～

どう片づける『親の家』？ 高齢化社会の 実家片づけ入門



一般社団法人実家片づけ整理協会
代表理事 **渡部亜矢**氏

平成28年度第3回流通関連セミナーを平成29年3月23日(木)に横浜市神奈川区民文化センター「かなっくホール」で開催しました。テーマは、賃貸住宅の入居者トラブルへの対処法と実家の片づけ方です。二部構成で、第一部は「本当に起きた大変な入居者トラブルに対処する方法～家賃滞納・原状回復・その他のトラブルへの対処法～」と題して、南青山法律事務所の青木龍一弁護士が講演しました。第二部は「どう片づける『親の家』？ 高齢化社会の実家片づけ入門」をテーマに、一般社団法人実家片づけ整理協会の渡部亜矢代表理事が講演しました。第二部のサマリーを掲載します。

片づけのゴールは「安心・安全・健康に暮らせる家」

実家の片づけは目指すゴールが若い人と年配者ではまったく違います。綺麗に収納することが目標ではなく、これからはみんなが長生きするので「安心・安全・健康に暮らせる家」というゴールを設定しないと、片づけは進まないと考えています。

家の中にある物は、だいたい思い出の品です。ボールペン一本でも書ける物は価値がありますが、書けなくなった物でも小さい頃に絵の展覧会で入賞したときに賞品として貰ったものであれば大切な思い出の品になります。端からはジャッジできない物が思い出です。年齢とともに物が増え、思い出もどんどん増えていきます。ところが体力は歳とともにどんどん落ちていきますから、片づける作業が大変になっていきます。

今の高齢者は戦前の物が不足していた時代に生まれていますから、豊かになって物が何でもある時代とは異なり、物を捨てることに抵抗があります。ですから、今は平和な時代なので、そんなに物を持たなくても安心して生きて行けるということを知ってもらう必要があると思います。

普段から親子のコミュニケーションを

今は癌や脳卒中など大きな病気にならないければ健康だと言われていますが、長生きするようになるとそのような病気とつき合って生きていくことになります。それを支える土台が家です。そういう暮らしを支えていくために片づけは必要だと思えます。健康寿命というのがあります。平均寿命より10年ほど短くて70歳くらいで健康寿命がきたと男女とも思うそうですが、できれば健康寿命がくる前にやっておく

方が楽です。片づいていないと介護の質が落ちます。物が散らかっていてベッドが入らないとか、介護士がきても薬がどこにあるのかわからないということになるからです。先を読んで片づけておくことが大事です。

例えば地方に実家があって18歳で上京して、その後しばらく両親と連絡を取っていないという人が結構います。そういう人が突然、親の介護が必要になって実家に帰っても何を話していいのかわからないというケースがあります。親子の期間というのは、子育ての期間よりも大人になって親を介護する期間の方が長くなってきました。今までの概念を覆すような時代になりましたので、親子のコミュニケーションとは何かを考えることも重要です。また、少子高齢化社会は1人で多くの家の片づけをしなければならないことを意味しています。

「いる」「いない」を区別、思い出の物は最後に

実際に片づけていくためには、まず「いる」と「いない」を区別します。いる物は一瞬でわかります。例えば毎日使う眼鏡とか、財布などです。いない物も壊れた物や汚れた物などすぐにわかります。片づけで最も悩むのはグレーゾーンです。高齢の人は「捨てる」という発想がありません。捨てなくてもいい理由をずっと探しています。しかし、一瞬でも迷った物はそれほど必要ではないのです。それらの物を段ボール箱やごみ袋などの見えない所に取り敢えず入れる「一時保管」を薦めます。人は見えなくなった物を忘れますから、そのまま処分することができます。物の量を減らし、危なくない位置に移動させ、捨てるのではなく収めて移動するという発想が大事です。

片づけには生前整理と遺品整理があります。実家の片づけにはこの両方があるので難しくなります。遺品整理で大変なことは、大事な物がどうしても良い物の中に混ざっていることです。遺品整理にお金を掛けるのであったら、これからは人生が長いので生前整理にお金を費やすべきです。

具体的には、玄関のように誰が見ても綺麗な方が良いという場所から始めます。お金や思い出の物は最後にした方が良いと思います。物が不足していた時代に育った人に対して「捨てる」とは言いづらいので、不要な物があったら手放そうとか、ここにこれを置いておくと危ないから、などと言ってさりげなく処分していくことが良いと思います。片づいていないと安全・安心で健康な家は実現しないので、ぜひ実家の片づけを行ってほしいと思います。

